

号外

Japan  
Trucking  
Association

広報 とらつく

毎月1日・15日発行

12月7日号

発行所 公益社団法人 全日本トラック協会  
〒160-0004 東京都新宿区四谷三丁目2番地5  
全日本トラック協会 総務部広報室  
☎ (03) 3354-1029 (総務部広報室)  
https://jta.or.jp  
※掲載に関するお問い合わせは広報室まで  
(営業・夜間・休日・年末年始の受付はできません)

# 今こそ、基本に立ち返ろう!!

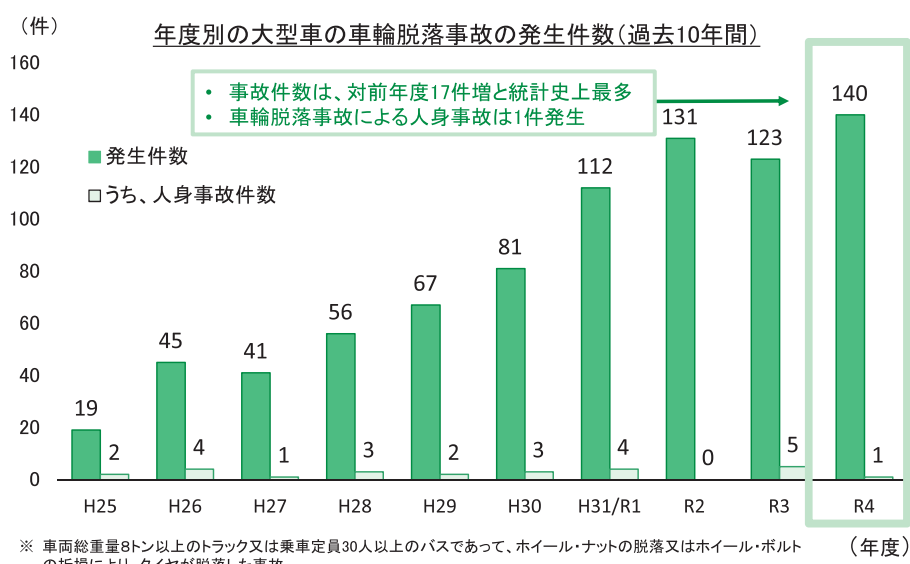
## 相次ぐ車輪脱落事故の防止徹底

### 「グリーンナンバー」の自信と誇りを胸に!

冬用タイヤ交換後には適切な時期にトルクレンチを使用して増し締めを行うなど、改めて確実なタイヤ脱着作業や保守管理の徹底が求められる



図 車輪脱落事故発生状況 (令和4年度)

坂本 克己  
全日本トラック協会会長

事業者、ドライバー、整備工場の皆さんの協力をお願いします。

### 防ごう 大型車の車輪脱落事故

**おとさなさい**

**おとさめための点検整備**  
事前の正しい点検が大きな事故を未然に防ぐ唯一かつ最善の手段です。

**トルクレンチで適正締付**  
適正なトルクレンチによる規定トルクの締め付け、タイヤ交換後の増し締めの実施。

**さびたナットは清掃・交換**  
ディスクホイール、取付面、ホイールナット当たり面、ハブの取付面、ホイールボルト、ナットの錆やゴミ、追加塗装などを取り除きます。

**ナット・ワッシャー隙間に給脂**  
ホイールボルト、ナットのねじ部と、ナットとワッシャーのすき間にエンジンオイルなど指定の潤滑油を薄く塗布し、回転させて油をなじませてください。

**いちにち一度は緩みの点検**  
運行前に特に脱落が多い左後輪を中心に、ボルト、ナットを目で見て手で触って点検します。

Mr. 整備くん

**動画をチェック!**

正しい点検方法や連結式インジケータの使用方法をご案内しています。

大型車の車輪脱落事故に、**「お・と・さ・な・い」**のポイントを徹底しよう!

大型車の車輪脱落事故に、**「お・と・さ・な・い」**のポイントを徹底しよう!

大型車の車輪脱落事故に、**「お・と・さ・な・い」**のポイントを徹底しよう!

全日本トラック協会は12月4日、坂本克己会長名で都道府県トラック協会を通じて全会員事業者に対して、「大型車における適切な冬用タイヤ交換作業等の実施について」を发出した。これは、11月30日、12月1日と相次いで事業用大型車による車輪脱落事故が発生し、青森県で発生した事故においては、左後輪タイヤ2本が脱落したことによる死亡事故が発生したこと、国土交通省が全通達を发出したことを受けたもの。全通達では、国土交通省が10月1日から実施中の「大型車の車輪脱落事故防止キャンペーン」および「大型車の車輪脱落事故防止に係る令和5年度緊急対策」の取り組みの最中にこのような重大事故が相次いだことに大きな危機感を持ち、再度大型車の車輪脱落事故防止対策について、基本に立ち返って再徹底するよう求めた。

また、国土交通省も重大事故が相次いだことを重く受け止め、12月4日には、「大型車の車輪脱落事故防止に係る一斉点検の実施について(依頼)」を全日本トラック協会に依頼し、国内物流の基幹的役割を担っており、国民の生活(くらし)と経済のライフライン(命綱)として、国内の産業活動や国民生活に不可欠な存在となっている。物流業界は、今後も安定的かつ安全で安心な輸送サービスを提供し続けることが社会的使命であり、トラックドライバーも物流を担う最前線で「自信と誇り」を胸に、日夜敢行して安全輸送に携わっている。今回のような相次ぐ車輪脱落事故の防止徹底を図るためには、タイヤの脱落事故は重大な事故に繋がる非常に危険なものであるという認識の下、冬用タイヤの適切な脱着作業、タイヤ交換後の適切な時期にトルクレンチを用いた増し締めの実施、運行前のタイヤの取り付け状態の適切な方法による日常点検の励行など、今こそ基本に立ち返ることが重要である。

#### 「令和5年度緊急対策」全日本トラック協会実施事項

- 傘下会員に対して、冬用タイヤ交換の平準化を推進するとともに、これまで取り組んできた次の実施事項について、引き続き取り組むよう周知・徹底を図る。
  - 整備管理者は、適切なタイヤ脱着作業の実施を確保するため、次の事項を徹底すること。
    - タイヤ脱着作業日程および作業時間に余裕を持った計画的なタイヤ脱着作業を実施する。特に降雪地を運行する車両がある場合は、「冬用タイヤ交換の平準化の推進」を踏まえ、積雪予報が発せられた際に急な作業とならないよう十分配慮する。
    - 自社でタイヤ脱着作業を行う際は、正しい知識を有した者に実施させる。
  - 運送事業者は、車輪脱落事故防止のための「お・と・さ・な・い」のポイント(写真左上)について、社内の整備管理者、運転者およびタイヤ脱着作業者に確実に実施させること。特に車輪脱落事故の多い左側後輪や積雪地域、舗装されていない道路を走行する大型車については、重点的な点検・整備の実施を心がけること。
  - 整備管理者は、著しくさびたホイール・ボルトやホイール・ナット、ディスク・ホイールでは適正な締付力が得られないため、タイヤ脱着作業時に点検・清掃や潤滑剤の塗布を行ってもさびが著しいディスク・ホイールや、ひっかかり等の異状がありスムーズに回らないホイール・ボルトおよびホイール・ナットは、使用せず交換すること。特に、ホイール・ボルト、ナットが新品の状態から4年以上経過している車両は入念に確認すること。
  - 整備管理者は、増し締めをやむを得ず車載工具で行う場合の実施方法を、運転者やタイヤ脱着作業者に指導すること。なお、整備管理者は、車載工具で増し締めを行った場合は、必ず帰庫時にトルクレンチを使用して規定のトルクで締め付けすること。
- 依然として、自社でタイヤ脱着作業を行った貨物自動車による車輪脱落事故が多く発生していることに鑑み、貨物自動車運送事業者に対しては、以下の実施事項を追加して取り組むよう周知・徹底する。
  - 整備管理者は、自社で大型車のタイヤ脱着作業を行うときは、作業員に対して、タイヤ脱着作業管理表に沿って作業を実施、その結果を記録させて、適切なタイヤ脱着作業が行われていることを確認すること。
  - 整備管理者は、タイヤ脱着作業管理表を使用して、タイヤ脱着作業後の増し締めの実施結果を記録し、確実に増し締めが実施されていることを確認すること。
  - 整備管理者は、日常点検実施者に日常点検表を使用して、「ホイール・ナットの緩み及び脱落」、「ホイール・ボルト付近のさび汁痕跡」、「ホイール・ナットから突出しているホイール・ボルトの不揃いの確認」および「ホイール・ナットの折損等の異状」の点検を確実に行わせること。なお、ホイール・ナットの緩みの点検については、点検ハンマによる確認手法のほか、ホイール・ナットヘマッキングを施す、または、ホイール・ナット回転指示インジケータを装着し、それらのずれを確認する手法により、ホイール・ナットの緩みの点検を確実に実施すること。
  - 国土交通省から要請される「ホイール・ナットの緩みの総点検」の実施および結果の報告について、傘下会員へ協力依頼する(年末年始の安全総点検関係)。
  - 全日本トラック協会においては、上記(1)および(2)に加え以下の事項について実施する。
    - トルクレンチを有していない事業所への保有を働きかける。
    - 「冬用タイヤ交換の平準化の推進」の取組に際し、日本自動車工業会から北海道・東北・北陸信越運輸局管内の傘下協会に提供される大型車ホイール用ナットについて、別途依頼している令和5年8月30日付け事務連絡に基づき、実績等を国土交通省自動車局整備課に送付する。

「お・と・さ・な・い」を徹底しよう!

また、12月5日の記者会見で、車輪脱落事故が相次いでいることについて国土交通省としての受け止めおよび対応について問われた齊藤鉄夫国土交通大臣は、「まずは、今回の事故でお亡くなりになった方と、そのご家族の皆様に対し、心からお悔やみ申し上げるとともに、負傷された方の1日も早い回復を願う」と述べた上で、「事故原因等の詳細は警察において捜査中だが、国土交通省においては、事故発生後運送事業者等に対して、冬用タイヤへの確実な交換作業等の実施や、保有するトラックのタイヤ取付状況の